

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32638

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01471

研究課題名（和文）現代アメリカの宇宙安全保障政策に関する実証的研究

研究課題名（英文）A Study on the Current U.S. Space Security Policy

研究代表者

川上 高司（Kawakami, Takashi）

拓殖大学・付置研究所・教授

研究者番号：90340017

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、2010年代後半以降の米中露大国間競争の開始により、現代アメリカがどのように宇宙安全保障政策を進化させているか、という問いを実証的に解明することを目的に開始された。現代アメリカ政治外交論、台湾研究、安全保障論の専門家から構成された本研究では、国内でイデオロギー的分極化が深刻化しようとも、現代アメリカは、宇宙空間における安全の確保をアメリカの国家安全保障の視点のみならず、同盟国との関係、ひいては第二次世界大戦後の国際秩序の維持にとって重要な課題の一つと捉えていることを解明することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2022年に閣議決定されたいわゆる安保三文書では、日本の宇宙安全保障への関心の高まりが示され、日本はアメリカと軍事安全保障分野はもちろんのこと、科学技術分野における日米宇宙協力を進展させることを打ち出し、日本はNATO（北大西洋条約機構）とも宇宙安全保障分野で協力していく方針である。本研究は、大国間競争と連動しながら、現代アメリカの宇宙安全政策がアメリカ国内政治の影響を大きく受けない形でどのように進化しているかを解明したという学術的意義のみならず、今後のアメリカや日本の宇宙安全保障政策の在り方を展望する上で有益な視座を提供したという社会的意義も有している。

研究成果の概要（英文）：The aim of this research project is to address the following question: how the current U.S. government has developed its space security policy in the age of great power competition among the U.S., China, and Russia since the late 2010s. This study, comprised of experts in modern American politics and diplomacy, Taiwan studies, and security studies, reveals that even though the U.S. faces domestic ideological polarization, the current U.S. government perceives outer space as one of the most important domains. For the U.S., securing outer space domain contributes not only to reinforcing U.S. national security, but also to maintaining its alliance partnerships and the international order which the U.S. has created and upheld since the Second World War.

研究分野：国際関係論

キーワード：ドナルド・トランプ政権 ジョー・バイデン政権 宇宙安全保障 大国間競争 米中関係 アメリカ政治
スペース・パワー 領域横断作戦

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の主たるテーマは、現代アメリカの宇宙安全保障政策であった。本研究のテーマである「宇宙安全保障」それ自体は、第二次世界大戦後の冷戦期のアメリカが追求したものであった。宇宙空間の軍事的価値が認識され始めたのは、「スプートニク・ショック」(1957年)であったが、宇宙空間からの敵国の核戦力の監視は、米ソが核抑止による「長い平和」を追求するための重要な要素であったため、冷戦期の大半は、ジョン・L・ギャディスが『長い平和 冷戦史の証言「核・緊張・平和」』(葦書房、2003年)で指摘したように、宇宙空間を戦闘領域としない考えが主流であった。ところが、2007年1月の中国によるASAT(衛星攻撃兵器)発射実験と宇宙ゴミ(スペースデブリ)の大量放出により、宇宙空間を戦闘領域としない大国間の暗黙の了解が崩れ、宇宙空間における軍拡競争が始まった。2010年代後半以降の米中露を中心とする大国間競争の開始により、現代アメリカにとって、宇宙安全保障は国家安全保障のみならず同盟国との関係、ひいては第二次世界大戦後の国際秩序の維持にとって最重要課題の一つとなっている。

(2) 研究開始時点における先行研究について、例えば、Everett Carl Dolman, "New Frontiers, Old Realities", *Strategic Studies Quarterly*, Vol.6, No.1, (Spring 2012)のような「スペース・パワー」に関する理論研究の蓄積が一定程度あり、邦語で読める文献としては国際関係との関連で宇宙問題を2011年時点で論じた鈴木一人『宇宙開発と国際政治』(岩波書店、2011年)などがあったが、大国間競争という国際政治のマクロ状況を踏まえた現代アメリカの宇宙安全保障政策に関する実証研究は未開拓の状況であった。こうしたことから、本研究では、現代アメリカ政治外交論、台湾研究、安全保障論の専門家からなる共同研究体制を構築し、下記「研究の目的」で記載した課題に取り組んだ。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、現代アメリカがどのような過程で宇宙空間を安全保障上の脅威が及び空間と認識し始め、具体的にどのような国内外の宇宙安全保障関連の政策を実行しているかを実証的に解明することであった。上記の先行研究の状況から、こうした目的を持つ本研究は、大きく以下の学術上および政策上の知見を広く国内外の社会に提供することを念頭に遂行された。第一に、これまで(研究開始時点で)「スペース・パワー」論のような理論研究に留まっていた同分野の研究を現代アメリカの宇宙安全保障政策を中心的事例に抽出することで実証研究に昇華させ、「大国間競争の開始が、現代アメリカの宇宙安全保障政策をどのように進化させているか」を解明することであった。そして第二に、こうした視点を解明することとなる本研究は、アメリカの同盟国である日本の宇宙政策や今後の日米関係、ひいては第二次世界大戦後の国際秩序の維持に、現代アメリカの宇宙安全保障政策がどのような影響を及ぼしているかを把握することであった。

(2) こうした目的・特徴を持つ本研究は、宇宙安全保障の観点から安全保障の新領域分野を開拓することのみならず、宇宙安全保障を軸とする日米協力や、こうした日米宇宙協力が第二次世界大戦後の国際秩序の維持に果たし得る視座を提供する可能性がある点において、独自性・創造性を有するプロジェクトであった。

3. 研究の方法

(1) 現代アメリカ政治外交論、台湾研究、安全保障論の専門家からなる本研究の研究体制の強みを活かし、本研究では、関連する二次文献および政府公刊資料を中心とした一次文献の調査・解析作業、ならびに海外での資料調査・インタビュー調査を重層的に行い、主に以下3つのサブテーマについての調査・研究を行った。安全保障理論班: 研究代表者、川上高司と研究分担者、志田淳二郎は、スペース・パワー論や領域横断(マルチドメイン)作戦などの宇宙安全保障や宇宙作戦に関する理論研究の調査・研究を行った。アメリカ分析班: 研究代表者、川上高司、研究分担者の中林美恵子と前嶋和弘の3名は、現代アメリカが宇宙空間を戦闘領域として認識するに至った大国間競争に関するアメリカ国内の政治動向などの調査・研究を行った。中国・台湾分析班: よりバランスのとれた研究を進めるため、アメリカの宇宙安全保障分野での競争相手とみなされている中国の戦略や、現代アメリカの安全保障政策全般に大きな影響を与える中台関係についての調査・研究は、研究分担者の松田康博が担当した。なお、安全保障理論班のうち、志田はヨーロッパにおける宇宙安全保障政策についての調査・研究も並行して行った。そのため、結果的に本研究は、安全保障理論、アメリカ、中国・台湾、ヨーロッパの4つからなる共同研究体制を構築した。

(2) これらサブテーマを各自がそれぞれ探求し、調査・研究過程で得た学術上および政策上の知見については、各自が関連する学会・研究会・講演会などでの研究報告・講演会報告や書籍・論文(国内外)という形で、国内外の社会に研究成果を還元することを継続した。

(3) また本研究開始後に宇宙安全保障に関する研究書籍を出版した福島康仁氏(防衛研究所主任研究員)や、宇宙安全保障や宇宙空間が利用される領域横断作戦について造詣の深い長島純空

将(2024年6月時点駐ブルギナファソ特命全権大使)、尾上定正空将(2024年6月時点防衛大臣政策参与)らを講師として招きオンライン会議を開催することで、本プロジェクトに参加する研究者の宇宙安全保障についての専門性を高める取り組みも継続的に行った。

(4)本研究開始時点で想定していなかった新型コロナウイルスの世界的感染拡大(パンデミック)とロシアによるウクライナへの大規模軍事侵攻が発生したことから、当初の研究計画に一定の修正が必要となったことから本研究において繰越(翌債)措置を講じた。こうした措置が日本学術振興会に認められ、コロナ・パンデミック収束後には、各自が海外における調査などを遂行することができた。コロナ・パンデミックやロシア・ウクライナ戦争の発生により、米中露の大国間競争が現代国際政治の基調となった点、実際の戦闘には宇宙空間を活用した領域横断作戦が主流となっている点などが改めて明らかになったことは、皮肉にも、本研究テーマへの理解を深める一助となった。下記「研究成果」や具体的な研究成果物に挙げるように、本研究では、宇宙安全保障政策のみならず、現代アメリカの宇宙安全保障政策に影響を及ぼすマクロ状況としてのアメリカ国内政治や日米関係、台湾情勢などに関連する研究成果物を公表することができた。

4. 研究成果

(1)研究開始当初の段階(2020年度)におけるドナルド・トランプ共和党政権がアメリカの政権運営をしていたが、2021年以降はジョー・バイデン民主党政権に代わった。2021年1月の連邦議会襲撃事件以降、アメリカ国内政治はイデオロギー的分極化に一層、拍車がかかっている状況である。一方、コロナ・パンデミックや中国の習近平政権の強権的な国内政策や台湾政策を中心とする強硬的な政策もあいまって、トランプ・バイデン両政権とも大国間競争という路線においては一貫している。また、特に、中国を主たる競争相手と見なしている点や宇宙空間をこうした大国間競争の影響が及ぶ空間と認識している点において共通点があることが判明した。

(2)トランプ政権下のアメリカは「宇宙軍」を創設し、バイデン政権発足以降も、陸・海・空といった物理的空間のみならずサイバー空間や宇宙空間にもまたがる領域横断作戦や統合抑止戦略を打ち出すなど、宇宙安全保障政策を進化させている。これに対抗する中国も人民解放軍内の改革を進めており、台湾についてもあらゆる領域(ドメイン)にまたがる形で台湾統一を視野に入れた様々な政策や手段を講じていることが判明した。2022年2月にロシアによるウクライナへの大規模軍事侵攻が発生し、ロシア・ウクライナ両軍とも宇宙空間を活用した領域横断作戦を実行していることから、宇宙空間が、宇宙安全保障のみならず、実際の戦闘行動や国家安全保障政策全般に非常に重要な空間であることが改めて明らかとなった。

(3)米中露の大国間競争の影響を大きく受けるのが、地政学的にもこれらの国々と密接な関係にある日本である。2022年12月に閣議決定された『国家安全保障戦略』、『国家防衛戦略』、『防衛力整備計画』からなる安保三文書では、日本の宇宙安全保障への関心の高まりが示され、その具体的運用の一部として、安保三文書公表後、日本政府はアメリカと軍事安全保障分野はもちろんのこと、科学技術開発の分野における日米宇宙協力を進展させることを打ち出しており、また、日本はNATO(北大西洋条約機構)とも宇宙安全保障分野で協力を強化していく方針であることが打ち出されている。今後、アメリカの宇宙安全保障政策に反応する形で日米宇宙協力や日・NATO協力が進むこと、さらにこうした動きに対抗する形で中露が独自の宇宙安全保障政策を遂行し、宇宙空間をめぐる民主主義諸国と権威主義諸国の間の対立構図が生まれることが想定される。

(4)以上のことから、大国間競争という国際政治のマクロ状況が、アメリカ国内政治におけるイデオロギー的分極化の影響を大きく受けることなく、現代アメリカの宇宙安全保障政策の主要因となっていることが明らかとなった。また、進化する現代アメリカの宇宙安全保障政策や宇宙空間における安全保障理論や作戦概念が、日米関係にも大きな影響を与えているのみならず、宇宙空間を効果的に活用した日米の安全保障政策の遂行が、第二次世界大戦後の国際秩序の維持に果たす影響が少なくないことが判明した。

(5)なお、下記の具体的な研究成果物にあるように、本研究に参加した研究者各自が研究成果を独自に公表している。研究開始当初は、本研究期間内に、本研究のテーマに関する研究書籍を刊行することを想定していたが、これについては、本研究期間内に達成することができなかった。そのため、今後、本研究の最終的な成果物を研究書籍という形で公表し、本研究活動で得た知見を広く国民・社会に還元する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計49件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 川上高司	4. 巻 69 (3)
2. 論文標題 バイデン政権の対中政策	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 12-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上高司	4. 巻 69 (2)
2. 論文標題 バイデンの世界	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 21-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上高司	4. 巻 69 (5)
2. 論文標題 米中激突第二幕	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 118-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 100(7)
2. 論文標題 就任1年目のバイデン米大統領	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 28(3)
2. 論文標題 バイデン政権の1年と今後の日米関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 治安フォーラム	6. 最初と最後の頁 68-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 99(38)
2. 論文標題 米国の落日：「ベトナム戦争以上」の失策、抜け出したかった「底なし沼」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 15-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 (701)
2. 論文標題 2020年アメリカ大統領選挙の検証	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 5-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中林美恵子	4. 巻 60
2. 論文標題 アメリカ二大政党の対立と今後の行方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Voters	6. 最初と最後の頁 7-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志田淳二郎	4. 巻 3
2. 論文標題 書評ジム・スキアット『シャドウ・ウォー 中国・ロシアのハイブリッド戦争最前線』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 環太平洋地域文化研究	6. 最初と最後の頁 187-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志田淳二郎	4. 巻 598
2. 論文標題 中国が仕掛けるハイブリッド戦	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊正論	6. 最初と最後の頁 74-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 10
2. 論文標題 習近平の軍事改革 権力集中、軍令・軍政分離、統合促進	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ROLES REPORT	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 常態化する中台関係の緊張 台湾社会の構造変化と習近平政権の戦略転換	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 37-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 Normalized Tensions in the Cross-Strait Relations: Structural Changes in Taiwanese Society and the Xi Jinping Administration's Strategic Shift	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Security Studies	6. 最初と最後の頁 41-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 23
2. 論文標題 中国の対台湾政策と台湾総統選挙 1996年～2020年	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本台湾学会報	6. 最初と最後の頁 53-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 16
2. 論文標題 中国対台政策及台湾総統選挙：1996-2020	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 欧亜研究	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 2021年7月
2. 論文標題 民進党は長期政権下するか？ ポスト蔡英文を読み解く	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 交流	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 No.695
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症と中国の対外関係悪化過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 39-51頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 第42巻特集号 (2020年度) 通巻83号
2. 論文標題 中国の対ラテンアメリカ政策 21世紀の言説と現実	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 イベロアメリカ研究	6. 最初と最後の頁 3-18頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 54
2. 論文標題 ソーシャルメディアが変えるアメリカ政治：選挙と政策運営に注目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アメリカ研究	6. 最初と最後の頁 137-158頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 81
2. 論文標題 米国の分極化、より激しく	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Janet e-World Premium	6. 最初と最後の頁 6-15頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 50/ 11
2. 論文標題 2020年を語る4つのキーワード：アメリカの「今」に迫る	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 イングリッシュジャーナル	6. 最初と最後の頁 25-48頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 90
2. 論文標題 アメリカ大統領選挙とバイデン政権の今後	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際情勢紀要	6. 最初と最後の頁 109-116頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上高司	4. 巻 Vol.68 No.6
2. 論文標題 アメリカの行方：新大統領で決まる世界	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 21-38頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上高司	4. 巻 Vol.68 No.4
2. 論文標題 「デジタル国家」時代の幕開け	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 20-36頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上高司	4. 巻 Vol.68 No.3
2. 論文標題 新型コロナウイルスで変わる世界秩序	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 20-36頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 Vol.27
2. 論文標題 Changes in the Dynamics of the Taiwan Strait due to Taiwan's Success in Controlling the Novel Coronavirus	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Review	6. 最初と最後の頁 57-79頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上高司	4. 巻 70(5)
2. 論文標題 バイデンの戦略 ウクライナ戦争のバランスシート	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上高司	4. 巻 70(3)
2. 論文標題 ウクライナ戦争と「歴史の終わり」 試される民主主義同盟	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 12-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上高司	4. 巻 71(1)
2. 論文標題 アメリカ中間選挙後の日本の危機管理	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 55-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上高司	4. 巻 71(4)
2. 論文標題 日本の核シェア 米国の拡大抑止をいかに確保するか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 144-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 94
2. 論文標題 バイデン政権の東アジア外交の現状 2021年-23年の動きを中心として	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国際情勢紀要	6. 最初と最後の頁 71-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 72(2)
2. 論文標題 イスラエル・ハマス紛争からみるアメリカ国内政治、外交の変化	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 75-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 680
2. 論文標題 ウクライナ戦争とアメリカ 世論の変化と大統領選挙の行方	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 83
2. 論文標題 文化戦争としての「トランプ党」現象	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 66-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 5(3)
2. 論文標題 米国の政治・社会の分断と民主主義の課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 56-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 29(9)
2. 論文標題 G7 広島サミットの開催と日米外交	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 治安フォーラム	6. 最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 30(1)
2. 論文標題 US Politics and Foreign Policy After the 2022 Midterm Elections: Perspective from Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Review	6. 最初と最後の頁 123-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 102(12)
2. 論文標題 米大統領選 「二つの米国」の分断深く バイデン、トランプ氏拮抗	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 17-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 122
2. 論文標題 「トランプ復帰確実」は時期尚早 その三つの理由	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Janet e-World	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 23(4)
2. 論文標題 「アメリカ大統領選挙」は「民主主義」を守るか否か?	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 リベラルタイム	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 93
2. 論文標題 バイデン政権の対中政策と日米同盟	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国際情勢紀要	6. 最初と最後の頁 57-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 71(1)
2. 論文標題 2022年中間選挙と今後のアメリカ政治・外交	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 82-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 23(3)
2. 論文標題 状況変化に対応する「次世代型の日米同盟」へ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 リベラルタイム	6. 最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 100(45)
2. 論文標題 下院は共和党勝利へバイデン氏、政権運営に制約 米国の分極化、収束の気配なし	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 17-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋和弘	4. 巻 100(15)
2. 論文標題 「冷戦2.0」時代 危機後も続くロシア包囲網	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 常態化する中台関係の緊張 台湾社会の構造変化と習近平政権の戦略転換	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 37-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 995
2. 論文標題 蔡英文政権の8年を総括する 民進党の長期政権化を実現させた要因は何か？	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 交流	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 681
2. 論文標題 2024年台湾総統・立法委員選挙の分析 過程、結果および新政権の展望	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 4(2)
2. 論文標題 ウクライナ戦争は米中新冷戦をどう変えるか?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 94-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計96件 (うち招待講演 52件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 経済安全保障と米中関係
3. 学会等名 一般財団法人 中曽根世界平和研究所
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 コロナ禍における米中大国間競争と我が国への安全保障環境の課題
3. 学会等名 陸上自衛隊セミナー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 バイデン政権の安全保障政策と日米同盟
3. 学会等名 防衛省情報本部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 バイデン政権のアメリカ
3. 学会等名 静岡県商工会議所
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 アメリカ情勢
3. 学会等名 防衛省情報本部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 アメリカの軍事戦略と日米同盟
3. 学会等名 陸上自衛隊富士学校
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 台湾情勢と日米同盟
3. 学会等名 NPO法人外交政策センター
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 バイデン政権下と日本の行方
3. 学会等名 八王子生涯学習センター
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前嶋 和弘
2. 発表標題 バイデン外交：アフガニスタン撤退とウクライナ侵攻への対応を中心に
3. 学会等名 上智大学国際関係研究所シンポジウム『和平調停と平和構築における包摂性の課題：国際平和の危機と展望』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前嶋 和弘
2. 発表標題 情報技術と政治の変容：アメリカの選挙を例にして
3. 学会等名 早稲田大学「地域間共生と技術」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前嶋 和弘
2. 発表標題 米国と自由主義秩序の将来
3. 学会等名 上智大学国際関係研究所シンポジウム『自由主義的国際秩序は崩壊するのか』
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 バイデン新政権の誕生が今後の米中関係及びアジア経済に及ぼす影響
3. 学会等名 早稲田大学・ベトナム総合研究所・研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 バイデン政権下のアメリカ政治と日米関係
3. 学会等名 富丘経済研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 バイデン政権始動、どうなる日米関係
3. 学会等名 フォーリン・プレスセンター
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 バイデン政権下の日米同盟への期待と課題
3. 学会等名 米インディアナ州日米協会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 コロナ禍に誕生したバイデン新政権の行方
3. 学会等名 日本アカデメイア
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 新時代の日米中関係
3. 学会等名 早稲田大学商学部 ファイナンス稲門会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 アメリカ新政権の行方と日米関係
3. 学会等名 岡山文化市民大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 大統領選後のアメリカ
3. 学会等名 早稲田大学商学部稲龍会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 米国議会におけるガバナンス
3. 学会等名 経済同友会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 バイデン米政権150日 米国の分断と外交
3. 学会等名 早稲田大学・コロンビア大学・日経新聞共催シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 9.11テロから20年：バイデン政権の外交・安保の方向性
3. 学会等名 日本新聞協会・国際委員会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 North Korea denuclearization and the U.S.-Japan alliance
3. 学会等名 J-win Executive Network (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 バイデン新政権発足を受けた日米中関係の新展開
3. 学会等名 兵庫県立大学・日経新聞 共催シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 志田淳二郎
2. 発表標題 ハイブリッド戦争の理論 日米関係へのインプリケーション
3. 学会等名 笹川平和財団日米グループ2021年度第1回日米関係研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 如何読解来自日本の政治外交新聞？
3. 学会等名 台湾日本研究院設立大会兼国際フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 Japan-Taiwan Relations and U.S. Roles in the New Era: Continuity or Change?
3. 学会等名 Global Taiwan Institute [Virtual Seminar,] Taiwan-Japan Relations: Implications for the United States (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博、渡部恒雄、長島純、中村進
2. 発表標題 台湾有事と日本の対応
3. 学会等名 SPF笹川平和財団 第3回SPF安全保障セミナー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 Implications of the Ukrainian War for the Indo-Pacific: A Conversation with Yasuhiro Matsuda
3. 学会等名 Hudson Institute (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 新冠肺炎疫情與東亞國際政治：美中日台關係的轉變
3. 学会等名 中興大學國際政治研究所 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 中国による台湾侵攻は起きるのか？ 中台關係の構造轉換とナッシュ均衡
3. 学会等名 時局心話会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 展望日本の対台湾政策
3. 学会等名 現代學術研究基金会「2021年美日大選後の台灣走向」研討會（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 美中競爭對立局勢下的台海趨勢分析
3. 学会等名 台北景福扶輪社（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 The Prospects of Sino-Japanese Relations?: From Rivalry to Cooperation??
3. 学会等名 Dans le cadre du s?minaire ??Aux origines de la mondialisation et de la ? divergence ?.?Europe Asie, 1500-2000 ? de?Fran?ois Gipouloux (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 The Strategic Impact of the Taiwan Issue on the US-Japan Alliance
3. 学会等名 Centre de Recherches sur le Japon, L' ?cole des Houtes ?tudes en Sciences Sociales (EHESS) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 Cross-Strait Relations in the 21st Century?: Dilemma between Prosperity and Self-Reliance
3. 学会等名 Dans le cadre du s?minaire ??Taiwan et ses lieux de m?moire?? de?Samia Ferhat?(s?ance exceptionnelle), L ' ?cole des Houtes ?tudes en Sciences Sociales (EHESS) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 Japan-Taiwan Relations in the 21 Century
3. 学会等名 Dans le cadre du s?minaire???La Chine r?publicaine (1912-1949) : nouvelles approches historiques???de Xavier Paul?s et Delphine Spicq, L ' ?cole des Houtes ?tudes en Sciences Sociales (EHESS) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 從歷史中探討台日双方相互的認知差距
3. 学会等名 日本台湾交流協會、 『台日關係史1945-2020』 出版紀念演講會 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 Japan-China Rivalry: Negotiating Challenges and Great Power Competition in Asia-Pacific
3. 学会等名 65th IRENE Seminar Co-sponsored by the ESSEC Geopolitics & Negotiation Track (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 日本有什?条件才会站在台湾這一辺?
3. 学会等名 亞洲前瞻講座第二場、台日關係發展：過去、現在和未来（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 志田淳二郎
2. 発表標題 ハイブリッド戦争の理論と実践
3. 学会等名 NPO法人海外安全・危機管理の会（OSCMA）第15回外交安全保障月例セミナー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 志田淳二郎
2. 発表標題 『ハイブリッド戦争』の脅威と国際秩序
3. 学会等名 日本クラウゼヴィッツ学会2020年度研究大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 前嶋和弘
2. 発表標題 選挙と世論からみるアメリカの「今」
3. 学会等名 日本政治学会年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 前嶋和弘
2. 発表標題 新型コロナウイルスが変えたアメリカ大統領選挙
3. 学会等名 日本政治法律学会研究大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 中国の対台湾政策と台湾総統選挙 1996年～2020年
3. 学会等名 日本台湾学会第22回学術大会 シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 習近平政権の対台湾政策 硬軟両用アプローチの挫折
3. 学会等名 安全保障貿易学会第30回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 日本の台湾研究與日本台湾学会：回顧與展望
3. 学会等名 台湾文学学会2020年度学術研討会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 アメリカ新政権における通商政策
3. 学会等名 グローバルビジネス学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 志田淳二郎
2. 発表標題 坂口滉季氏「スペース・パワー論の展開と限界についての考察」
3. 学会等名 日本国際政治学会2023年度研究大会安全保障分科会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 志田淳二郎
2. 発表標題 宇宙安全保障と国際政治
3. 学会等名 第468回東海大学望星学塾「創立者松前重義生誕記念講座」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 志田淳二郎
2. 発表標題 ハイブリッド戦
3. 学会等名 陸上自衛隊小平学校法務研究シンポジウム基調講演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前嶋和弘
2. 発表標題 Post-Polarization Scenarios in the United States: The Emergence of a Third Party?
3. 学会等名 The 55th ASAK (Association of American Studies in Korea) International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 前嶋和弘
2. 発表標題 ロシアのウクライナ侵攻 アメリカの視点から
3. 学会等名 「ウクライナ戦争をどう終わらせるか～和平調停の限界と可能性」(東大作著、岩波新書)出版記念シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 前嶋和弘
2. 発表標題 ウクライナ戦争後の国際秩序はどうなるのか アメリカの視点から
3. 学会等名 政策研究フォーラム全国大会(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 前嶋和弘
2. 発表標題 American Domestic Politics and U.S.-Japan Relations
3. 学会等名 SMU Tower Center and its Sun & Star Program on Japan and East Asia. Southern Methodist University(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 前嶋和弘
2. 発表標題 ロシアのウクライナ侵攻に対するアメリカの反応
3. 学会等名 上智大学国際関係研究所・防衛省防衛研究所 第1回合同研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 前嶋和弘
2. 発表標題 バイデン外交 アフガニスタン撤退とウクライナ侵攻への対応を中心に
3. 学会等名 上智大学国際関係研究所シンポジウム『和平調停と平和構築における包摂性の課題 国際平和の危機と展望』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 探索巨人の足跡：李登輝與他的時代
3. 学会等名 民主與民主之外：李登輝百年誕辰紀念學術研討會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 Cross-Strait Relations in the 21st Century? Dilemma between Prosperity and Self-Reliance
3. 学会等名 Dans le cadre du séminaire ??Taiwan et ses lieux de mémoire?? de Samia Ferhat?(s?ance exceptionnelle), L' ?cole des Hautes ?tudes en Sciences Sociales (EHESS) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 如何読解来自日本の政治外交新聞？
3. 学会等名 台湾日本研究院設立大会兼国際フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 ウクライナ紛争 - 現状と行方：米国の視点から
3. 学会等名 日本防衛学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 激動する国際秩序とビジネス環境が問うレジリエンス
3. 学会等名 グローバルビジネス学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 中間選挙後のバイデン政権と日米関係
3. 学会等名 一般社団法人 内外情勢調査会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 激動する国際秩序：中間選挙後の米国内政・日米関係
3. 学会等名 公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 ウクライナ危機後の米中関係と日本 - 東アジアの安全と国際秩序の行方 -
3. 学会等名 兵庫県立大学・日経新聞 共催シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 2024年大統領選挙を控えたアメリカ政治の現状
3. 学会等名 早稲田大学エグゼクティブ・フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 Foreign Affairs/Security: Political Developments
3. 学会等名 The Wilson Center and Japan-America Society of Washington, DC.（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 アメリカ政治の現状
3. 学会等名 日本経済新聞Think! 3周年フォーラム(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 中間選挙後の米国と世界
3. 学会等名 日本記者クラブ(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 2023年 激動する国際情勢の展望
3. 学会等名 霞が関文化サロン
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 バイデン政権の後半戦 - 山積する内外の課題 -
3. 学会等名 みずほリサーチ&テクノロジーズ(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 激変する国際情勢と日本の課題
3. 学会等名 させば夢大学 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 国際情勢と共に生きる私たちの未来
3. 学会等名 埼玉県深谷市役所 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 How the inner workings of Japan's government impact US-Japan cooperation: Japan's political stance on the SDF's
3. 学会等名 Fifth Air Force Commander's Conference (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 Japanese Policy-making and Politics: Differences between the U.S. & Japan
3. 学会等名 The Maureen and Mike Mansfield Foundation (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中林美恵子
2. 発表標題 激動する国際秩序と米国政治、そして日米関係
3. 学会等名 北海道三笠市役所（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 ウクライナ戦争と台湾アナロジー
3. 学会等名 拓殖大学海外事情研究所国際講座（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 2024年地政学危機に日本は生き残れるか
3. 学会等名 第13回 グローバル・経営者フォーラム in 九州（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 アメリカ事情と日本の安全保障
3. 学会等名 防衛省情報本部（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 宇宙の安全保障と我が国の防衛
3. 学会等名 防衛所情報本部基礎分析過程（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 宇宙の地政学
3. 学会等名 防衛省情報本部（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 アメリカ政治の現状
3. 学会等名 防衛省陸上自衛隊小平学校（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 日本は国を護る気概はあるのか
3. 学会等名 衆議院財政金融委員会公聴会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 日米安保と台湾危機
3. 学会等名 京都産業大学講演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 サイバー地政学
3. 学会等名 （社）日本外交政策学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 マハンの地政学
3. 学会等名 （社）日本外交政策学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 中国と地政学
3. 学会等名 （社）日本外交政策学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 日本核武装論
3. 学会等名 (社)日本外交政策学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 マッキンダーのハートランド論とスパイクスマンのリムランド論
3. 学会等名 (社)日本外交政策学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 ヨーロッパと地政学 NATOとウクライナ
3. 学会等名 (社)日本外交政策学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 ヒットラーの地政学 ハウスフォーファーのランドパワー
3. 学会等名 (社)日本外交政策学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 日本の地政学
3. 学会等名 (社)日本外交政策学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 宇宙の地政学
3. 学会等名 (社)日本外交政策学会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 世界情勢と地政学
3. 学会等名 (社)日本外交政策学会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 ウクライナの宇宙・サイバー戦
3. 学会等名 (社)福岡経営者協会(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 川上高司
2. 発表標題 地政学課題と日本の安全保障
3. 学会等名 (社)佐賀政研フォーラム(招待講演)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計27件

1. 著者名 久保 文明、中山 俊宏、山岸 敬和、梅川 健	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 344
3. 書名 アメリカ政治の地殻変動	

1. 著者名 東京財団政策研究所、久保文明	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 168
3. 書名 トランプ政権の分析	

1. 著者名 川上 高司、石井 貴太郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 248
3. 書名 パンデミック対応の国際比較	

1. 著者名 川上 高司、樋口 敬祐、上田 篤盛、志田 淳二郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 並木書房	5. 総ページ数 444
3. 書名 インテリジェンス用語事典	

1. 著者名 外交政策センター、川上 高司、星野 俊也、石澤 靖治	4. 発行年 2021年
2. 出版社 創成社	5. 総ページ数 292
3. 書名 2021年パワーポリティクスの時代	

1. 著者名 志田 淳二郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 並木書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 ハイブリッド戦争の時代	

1. 著者名 吉野孝、前嶋和弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 272
3. 書名 危機のアメリカ「選挙デモクラシー」	

1. 著者名 中林 美恵子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 小学館	5. 総ページ数 288
3. 書名 沈みゆくアメリカ覇権	

1. 著者名 川島 真、清水 麗、松田 康博、楊 永明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 340
3. 書名 日台関係史 1945-2020 増補版	

1. 著者名 納家 政嗣、上智大学国際関係研究所	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 自由主義的国際秩序は崩壊するのか	

1. 著者名 東京財団政策研究所、久保文明	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 168
3. 書名 トランプ政権の分析	

1. 著者名 東大社研現代中国研究拠点	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 208
3. 書名 UP plus コロナ以後の東アジア	

1. 著者名 佐藤幸人・小笠原欣幸・松田康博・川上桃子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	5. 総ページ数 152
3. 書名 蔡英文再選 2020年台湾総統選挙と第2期蔡政権の課題	

1. 著者名 外交政策センター、川上高司、石澤靖治、蟹瀬誠一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 創成社	5. 総ページ数 278
3. 書名 2023年野蠻の時代 米中衝突第2幕後の世界	

1. 著者名 国際経済連携推進センター	4. 発行年 2023年
2. 出版社 産経新聞出版	5. 総ページ数 213
3. 書名 ウクライナ侵攻と世界 岐路に立つ国際秩序	

1. 著者名 吉野孝・前嶋和弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 272
3. 書名 危機のアメリカ「選挙デモクラシー」	

1. 著者名 山本龍彦・小川有希子・尾崎愛美・徳島大介・山本健人・前嶋和弘ほか	4. 発行年 2024年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 396
3. 書名 個人データ保護のグローバル・マップ 憲法と立法過程・深層からみるプライバシーのゆくえ	

1. 著者名 前嶋和弘	4. 発行年 2022年
2. 出版社 小学館	5. 総ページ数 255
3. 書名 キャンセルカルチャー アメリカ、貶めあう社会	

1. 著者名 前嶋和弘・岡山裕	4. 発行年 2023年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 274
3. 書名 アメリカ政治	

1. 著者名 吉野孝・前嶋和弘ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 早稲田大学出版部	5. 総ページ数 266
3. 書名 地域間共生と技術 技術は対立を緩和するか	

1. 著者名 中林美恵子・竹中平蔵	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 264
3. 書名 挑戦を受ける民主主義と資本主義 ショックセラピー-2035	

1. 著者名 高原明生・園田茂人・丸川知雄・川島真	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 418
3. 書名 日中関係2001-2022	

1. 著者名 赤木莞爾・国際安全保障学会	4. 発行年 2024年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 279
3. 書名 国際安全保障がわかるブックガイド	

1. 著者名 Paul O'Neil	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Bloomsbury Academic	5. 総ページ数 240
3. 書名 Securing the State and its Citizens: National Security Councils from Around the World	

1. 著者名 日本国際問題研究所	4. 発行年 2023年
2. 出版社 日本国際問題研究所	5. 総ページ数 208
3. 書名 習近平政権研究	

1. 著者名 志田淳二郎	4. 発行年 2024年
2. 出版社 並木書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 ハイブリッド戦争 揺れる国際秩序	

1. 著者名 藤巻裕之、加藤朗、伊東寛、土屋大洋、渡部悦和、佐々木孝博、パーヴェル・カラセフ、志田淳二郎、和田龍太	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東海教育研究所	5. 総ページ数 281
3. 書名 グローバルシフトと新たな戦争の領域 精密兵器と競争のフロンティアが国際政治に及ぼす変動と変容	

〔産業財産権〕

〔その他〕

川上高司研究室
<http://tkawakamidreams.net/>
 東京大学東洋文化研究所 松田康博研究室
<https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ymatsuda/jp/biog.html>
 researchmap 前嶋 和弘
<https://researchmap.jp/read0083941>
 researchmap 志田 淳二郎
<https://researchmap.jp/7000017230>
 川上高司研究室
<http://tkawakamidreams.net/>
 東京大学東洋文化研究所 松田康博研究室
<https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ymatsuda/jp/biog.html>
 researchmap 前嶋 和弘
<https://researchmap.jp/read0083941>
 researchmap 志田 淳二郎
<https://researchmap.jp/7000017230>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前嶋 和弘 (Maeshima Kazuhiro) (10350729)	上智大学・総合グローバル学部・教授 (32621)	
研究分担者	松田 康博 (Matsuda Yasuhiro) (50511482)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	
研究分担者	中林 美恵子 (Nakabayashi Mieko) (90371187)	早稲田大学・留学センター・教授 (32689)	
研究分担者	志田 淳二郎 (Shida Junjiro) (90782318)	名城大学・国際学部・准教授 (28003)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------